

人がより自然に過ごすために様々な「バリア」を取り除くこと

長谷川尚見

地域包括支援センター 社会福祉士・精神保健福祉士

ご講義を通し、福島先生のさりげないお言葉の一つ一つが、この世界に、自然に優しく溶け込むように感じました。まるで、指点字通訳のお二人は巫女、福島先生はありのままの神様であり、ご講義の空間は、自分にとってかえがえのない貴重なひとときでした。素敵な心温まるお時間をいただきまして、福島先生をはじめ、ゆき様にも、皆様にも、心より深く感謝申し上げます。

自分は、幼い頃からの家庭環境や、その後の様々な出来事を通し、自分が本来であれば伝えたいことを伝えることができない環境で過ごすことも多くございましたので、違う視点からになりますが、必要とされる『コミュニケーション』が大変重要であるということ、痛切に感じております。

ご講義の中にごございました「バリアフリーを取り巻くバリアを取り除く」ということは、自分が捉える中でも、絶えず続けていかなければならない研究であると感じます。また、自分が考え、感じる中でも、人が暮らす環境には、ふと気付くと何かしらの「バリア」が存在していることがございます。それが何を意味する「バリア」であるのか、すぐに「バリアフリー」へと繋ぐことができるものであるのかは、内容に合わせた研究を続けていくことが必要であると思われませんが、ご講義を通し、人がより自然に過ごすために取り除くことが必要である様々な「バリア」を取り除くことは、改めて重要であるということ、自分の立場においても感じている部分を振り返り、考える、貴重な機会とさせていただきました。

日頃より、社会福祉士・精神保健福祉士である自分の立場で出逢う様々な方々の環境を考えることを通し、福島先生のお言葉にごございましたように、「辛いことは我慢する必要はない」と感じる場合がございます。さらに、自分が感じてきたことを通してではございますが、「大切な辛さを通り抜けたら弱さを出せる」という先生のお言葉に、改めて心を動かされるものがございまして、自分の役割においても丁寧に深め続けることが必要とされる大変貴重なお言葉であることを考える機会となりました。有難うございました。

自分も子供の頃に、ヘレンケラーの伝記を読みまして、言葉にならない深い感動が心に刻まれております。ご講義の中で、ヘレンケラーは、「覚醒と成長の物語である」とのお話がありましたが、当時の自分が言葉にすることができなかった感動の一部分が、福島先生のお言葉で表されていることに、大変嬉しく、そして静かに心に響いていることを感じました。

これからも自分を支えてくださる方々に感謝しながら、自分の役割を通していただく気付きを深め、自分に必要な学びを継続し、より心温まる適切なお縁を繋いでいくことを目指したいと思います。

今後とも、ご指導くださいますようお願い申し上げます。